

Title	表紙・目次 (泌尿器科紀要 第6巻第8号) 編集後記・購読要 項・投稿内規
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (1960), 6(8): 710-710
Issue Date	1960-08
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/111984">http://hdl.handle.net/2433/111984</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 泌 尿 器 科 紀 要

第 6 巻 第 8 号

昭和 35 年 8 月

随想 第55回全米泌尿器科学会.....	友 吉 唯 夫	599
精囊腺組織の体外培養学的研究		
第1編 基礎実験成績.....	中 野 順 道	601
精囊腺組織の体外培養学的研究		
第2編 男性ホルモンの組織発育に及ぼす影響.....	中 野 順 道	609
精囊腺組織の体外培養学的研究		
第3編 女性ホルモンの組織発育に及ぼす影響.....	中 野 順 道	618
精囊腺組織の体外培養学的研究		
第4編 副腎皮膚ホルモンの組織発育に及ぼす影響.....	中 野 順 道	624
経尿道の切除術(TUR)における血液化学的研究並びにBalance study .....	村 上 嶽 郎	630
異常血管に起因した水腎症の4例.....	地土井襄聖・浜田邦彦・碓井博司・西山文雄	660
小児膀胱平滑筋肉腫—術後8年尚健在な女兒の1例—.....	大 北 健 逸	667
女性仮性半陰陽症例(経口的黄体ホルモン投与に起因する?) .....	百瀬剛一・島崎 淳・片山 喬・遠藤博志	673
潜在性副腎腫の1例.....	園田孝夫・村上嶽郎・中野井邦夫	682
脱感作の奏効せる特発性腎出血.....	笠井三郎・河合恒雄・近藤 昭・林 来耀	691
陰 莖 異 物.....	河合恒雄・近藤 昭・林 来耀・福田 覚	696
泌尿器科領域におけるテトカイン(ボントカイン)による腰椎麻酔法 .....	後藤 薫・仁平寛巳・北山太一・沢西謙次・本郷美弥・久世益次	701
編集後記・購読要項・投稿内規.....		710

Studies on the Tissue Culture of the Seminal Vesicle		
I. Fundamental Experiments.....	J. Nakano	601
Studies on the Tissue Culture of the Seminal Vesicle		
II. Influences of Male Sex Hormone upon the Growth of the Tissue of the Seminal Vesicle.....	J. Nakano	609
Studies on the Tissue Culture of the Seminal Vesicle		
III. Influences of Female Sex Hormone upon the Growth of the Tissue of the Seminal Vesicle.....	J. Nakano	618
Studies on the Tissue Culture of the Seminal Vesicle		
IV. Influences of Adrenocortical Hormone upon the Growth of the Tissue of the Seminal Vesicle.....	J. Nakano	624
Blood Chemistry and Balance Study in Transurethral Resection.....	G. Murakami	630
4 Cases of Hydronephrosis in the Cause of Abnormal Blood Vessels.....	J. Chidoi, K. Hamada, H. Usui and H. Nishimura	660
Leiomyosarcoma of the Bladder in Child.....	K. Okita	667
Female Pseudohermaphroditism (Associated with Administration of Certain Oral Progestins during Pregnancy ?).....	G. Momose, J. Shimazaki, T. Katayama and H. Endo	673
A Case of Occult Hypernephroma.....	T. Sonoda, G. Murakami and K. Nakaarai	682
A Case of Renal Hematuria Treated by Desensitization using Staphylotoxoid.....	S. Kasai, T. Kawai, A. Kondo and Lin L. Y.	691
Foreign Body in Penis; Report of Two Cases.....	T. Kawai, A. Kondo, Lin L. Y. and S. Fukuda	696
The Effect of Lumbar Anesthesia with Tetocaine in Urological Operation.....	K. Gotoh, H. Nihira, T. Kitayama, K. Sawanishi H. Hongo and M. Kuze	701

京 都 大 学 医 学 部 泌 尿 器 科 教 室

泌 尿 紀 要

Acta Urol.

Department of Urology, Faculty of Medicine,  
Kyoto University, Japan.

Editor : Prof. Tsutomu INADA

## 編集後記

今回、東京医科歯科大学と千葉医大に泌尿器科講座が新設せられて落合京一郎博士及び百瀬剛一博士が夫々教授に就任せられた。まことに御同慶に堪えない。



皮科と泌科との分離に就ては、以前から私は主張しているが、両科が全く別個のものである事は明かである。湿疹と腎結核が同一科目の中には有り得ない。過去に於て両科が未だ独自性を持たず、且つ性病の盛んな時代に於ては、これを中心として両科に連絡があつたが、近年の如く性病が衰えると、その僅かな連絡も断えてしまつた。今では全く無縁のものとなつた。然るに一般世間のみならず、医界に於てさえ、まだ昔の如くに両科に関連あるものと考えている者がある。あきれた事である。学問としてのみならず、最近の進歩した診療を行うためには、専門的にならねばならぬのは勿論であり、实际的、経営的な面に於ても両科は独立して行けると思う。大学病院にては両科ともに患者が増加しているし、総合病院にても同様であらう。唯、皮科は外来、泌科は入院患者が主であると言う特色があるから、個人開業と言う点から考えると、泌科はあまり向かないであらう。従つて泌科医師を志望する限りは、将来は個人開業よりは大学或は大病院勤務を考える事にならう。京大病院の各科別毎月保険点数に於て泌科は内科、外科に次で第三位であるから、泌科の点数は意外に多い。

大学に於て両科が分離すべきは当然である。分離しない大学には大学院を設置したり、専門医を養成したりする資格があるとは云いがたい。分離出来ない理由を何のかのと云わずに、文部省も大学も教授も両科独立のために努力してほしい。

総合病院にては両科を分離すると、両科ともに患者が増して経営上にも好結果が生ずる。1名の医師に両科を担当させる如きは不合理であるばかりでなく、医師を酷使するものである。医長と医員を1名宛置くのであれば、両科を分離して、両名を夫々医長にすれば、病院の資格は上がり、医師にも熱意が湧き、患者も増すのである。病院経営者はその点をよく考えるべきである。

(昭和35年8月)

## 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

## 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, A.: J. Urol., 45：527, 1941。
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は中受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。